児童生徒のウェルビーイングを高めるための非認知能力育成「群馬モデル」

資料１

非認知能力育成「群馬モデル」

群馬県教育ビジョンの実現を目指し、主体性を核として非認知能力と認知能力を一体的に育む群馬ならではの取組

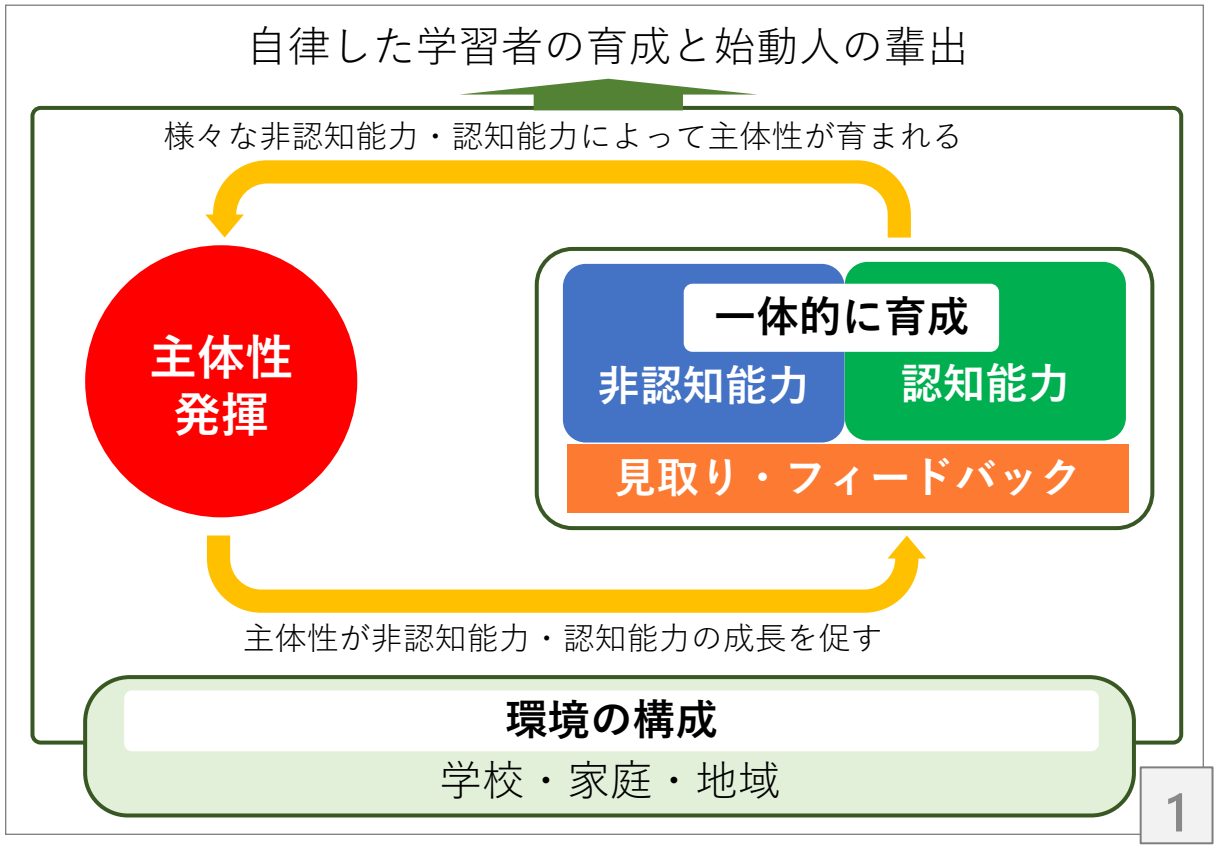
～ 児童生徒の主体性を引き出す環境の構成と、一人一人の変容に寄り添う見取りとフィードバックによる支援 ～

・人は誰しも自分と社会をより良くしようと願う意思、原動力であるエージェンシーを生まれついて持っている。そのため、学校や教員は、児童生徒の力を信じ、主体性を引き出す仕組み（環境の構成）を取り入れる。
・環境の構成により表出した児童生徒の姿を適切に見取り、価値づけや勇気づけを行うことで、一人一人の変容に寄り添った支援を行う。

「群馬モデル」の７つのポイント

① 主体性を核とした非認知能力・認知能力の育成
② 主体性を引き出す環境の構成
③ 個の変容に寄り添う見取りとポジティブフィードバック
④ 非認知能力育成の視点で現状の取組を再整理
⑤ 学校・家庭・地域と連携したALL群馬の取組
⑥ Pathfinderによる学校・教員支援
⑦ 学習観・教育観のアップデート

Ｒ９年度以降
・非認知能力育成「群馬モデル」の普及
・「群馬モデル」の検証及びアップデート



児童生徒のウェルビーイングを高めるための非認知能力育成「群馬モデル」

ポイント「① 主体性を核とした非認知能力・認知能力の育成」について

主体性を核とするとは

- 主体性は他の能力の成長を支える基盤であるとともに原動力となることから、群馬モデルでは主体性を極めて重要な非認知能力として位置付けています。
- また教育に関する各種調査において、日本（群馬県）の児童生徒の主体性の低さが指摘されており、群馬県は早急に取り組むべき重要な課題として、「群馬県教育ビジョン」や「新・群馬県総合計画」における取組をすでに進めています。

主体性の発揮と非認知能力・認知能力の関係

- 主体性を発揮して自ら考え、挑戦し、他者と協働しながら試行錯誤するなどの経験を重ねることで、様々な非認知能力が育まれるとともに、認知能力の成長にもつながります。
- 主体性の発揮により育まれた非認知能力と認知能力が更なる主体性の発揮を支えます。

非認知能力と認知能力の一体的な育成

- 非認知能力が育まれると、難しい課題にも粘り強く取り組んだり、自ら学習を調整したり、他者との対話を通して理解を深めたりする際に大きな支えとなり、認知能力の向上にもつながります。
- 認知能力が育成されると、自信がついて意欲が高まったり、好奇心を働かせて新たなことを創造したり、自分の思いや考えを伝えるために他者と関わったりするなど非認知能力の育成にもつながります。

児童生徒のウェルビーイングを高めるための非認知能力育成「群馬モデル」

ポイント「② 主体性を引き出す環境の構成」について

・主体性を引き出す環境の構成は、まず安全・安心な風土を醸成していくことです。そして、児童生徒の力を信じて任せる教育活動をデザインすることが重要です。

・その際、発達段階等に応じて、自己決定、対話・交流、試行錯誤の場面を効果的に設定するなど、児童生徒の力を信じて任せる教育活動の割合を意図的・計画的に増やしていきます。

環境の構成（イメージ）

主体性の発揮

環境の構成

児童生徒の力を信じて任せる教育活動をデザイン

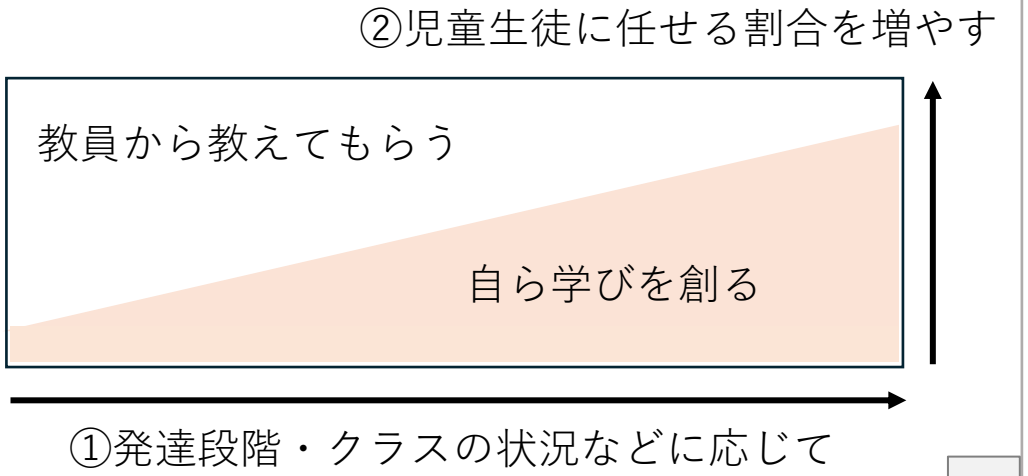
・自己決定、対話・交流、試行錯誤の場面を設定する
・学び方（誰と、どこで、どのように）の選択肢を与える
・教育活動の目的（ゴール）を児童生徒と共有する
・メタ認知や自己調整につながる振り返りを設定する
・意図的に（考える、試す、振り返る）余白時間を設ける

安全･安心な風土の醸成

・自分の考えを表現することに不安を感じない環境
・失敗を恐れず挑戦してみようと思える環境

児童生徒の力を信じて任せる割合（イメージ）

発達段階等に応じて、**児童生徒の力を信じて任せる教育活動を意図的・計画的に増やす**

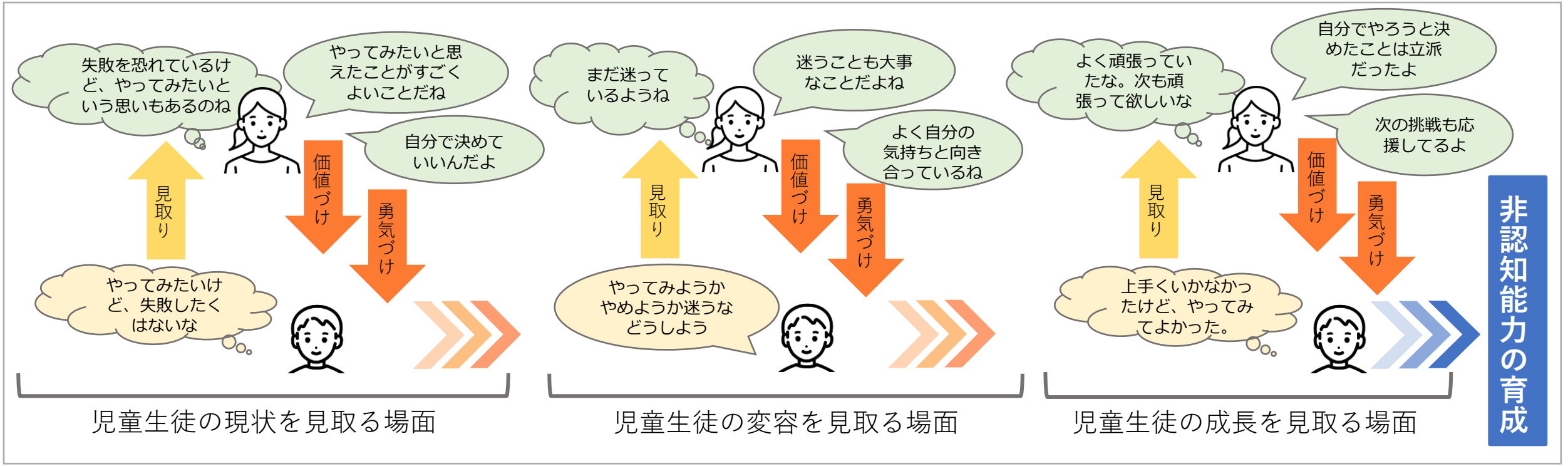


児童生徒のウェルビーイングを高めるための非認知能力育成「群馬モデル」

ポイント「③ 個の変容に寄り添う見取りとポジティブフィードバック」について

・個の変容に寄り添う見取りとは、一人一人の状況を丁寧に見取っていくことです。
・個の変容に寄り添い見取ったことに対して、価値づけ・勇気づけを意識したポジティブフィードバックを行うことで、児童生徒の非認知能力の成長につながります。

個の変容に寄り添う見取りとポジティブフィードバック（イメージ）



児童生徒のウェルビーイングを高めるための非認知能力育成「群馬モデル」

ポイント「④ 非認知能力育成の視点で現状の取組を再整理」について

・教育活動を、育成する非認知能力の明確化という視点（非認知能力育成の視点）で再整理することで、育成したい非認知能力を踏まえた意図的・計画的な実践につながります。

教育活動の再整理
「新たな取組の追加」ではなく、既存の教育活動（授業、学校行事、特別活動等）を非認知能力育成の視点で見直し、再整理する。

非認知能力育成の共通理解
教育活動を通じて育成したい非認知能力について、教員が目線合わせを行い、意図的・計画的な実践につなげる。

ポイント「⑤ 学校・家庭・地域と連携したALL群馬の取組」について

・非認知能力は、学校だけでなく、家庭や地域での関わりの中でも育まれるため、学校・家庭・地域がその重要性や支援の在り方について共通理解を持ち、連携しながら児童生徒の成長を共に支えることが大切です。

児童生徒 ⋙ **非認知能力・認知能力の成長**

学校（管理職・教員等）
• 児童生徒の主体性発揮により非認知能力・認知能力の一体的な成長を支援する

家庭（保護者）・**地域**（住民・自治体・企業等）
• 存在・努力・挑戦を認めることで児童生徒の自己受容や他者信頼を高める

非認知能力育成の重要性や支援の在り方を共有する

教育委員会
• 非認知能力育成「群馬モデル」を普及し、活用を促進する
• 教員の理解や実践の参考となる情報・資料を提供する

児童生徒のウェルビーイングを高めるための非認知能力育成「群馬モデル」

ポイント「⑥ Pathfinderによる学校・教員支援」について

- Pathfinderとは、学校や教員が児童生徒の非認知能力を育成する際の拠り所となる実践的な教員支援資料（ガイド）です。
- 非認知能力育成に関係したこれまでの様々な取組から得られた知見等を整理し、非認知能力育成に向けた考え方や、学校及び教員が非認知能力を育成する際の参考となる具体的な実践事例などを掲載しています。
- 学校や教員が活用しやすく、実践につなげられるように、ウェブサイト・冊子・リーフレットとしてまとめています。

Pathfinder（パスファインダー）

非認知能力育成を支援する資料（ガイド）
- 群馬県が考える非認知能力育成の基本的な考え方
- 教員が学校現場で活用しやすい具体的な実践事例
- 非認知能力育成を幅広く捉えるための国際調査や共同研究等からの知見　等

ウェブサイト



冊子



リーフレット



これまでの主な取組

- 非認知教育専門家委員会
- 指定校における実践研究
- SSES結果分析
- OECDとの連携
- スコットランド共同研究

児童生徒のウェルビーイングを高めるための非認知能力育成「群馬モデル」

ポイント「⑦ 学習観・教育観のアップデート」について

・主体性を核とした非認知能力と認知能力を一体的に育む教育活動により、児童生徒の学習観及び教員の教育観がアップデートされます。

④非認知能力育成の視点で現状の取組を再整理

①主体性を核とした非認知能力・認知能力の育成

②主体性を引き出す環境の構成

③個の変容に寄り添う見取りとポジティブフィードバック

⑤学校・家庭・地域と連携したALL群馬の取組

児童生徒の学習観のアップデート

・失敗を恐れずに挑戦することに価値があると思える。
・教わるではなく、自分で学ぼうと思う。
・自分で考え、判断して、行動することが自己の成長につながると思える。 など

教員の教育観のアップデート

・児童生徒を信じて任せることが重要である。
・結果や点数と同様に過程も大事である。
・児童生徒も教員も失敗しても大丈夫と思える。
・非認知能力と認知能力の一体的な育成が重要である。 など

⑥ Pathfinderによる学校・教員支援